藤沢市子ども読書活動推進計画（素案）に対する パブリックコメント（市民意見公募）の実施結果について

「藤沢市子ども読書活動推進計画（素案）」についてパブリックコメントを実施し、皆様から多くの貴重なご意見等をいただきました。貴重なご意見等をお寄せいただき、ありがとうございました。

期間中にいただいたご意見等に対する市としての考え方について、公表いたします。

なお、ご意見等は、趣旨を損なわないよう要約させていただきました。

1　パブリックコメントの概要

（１）内容　「ふじさわ子ども読書プラン 2030」第５次　藤沢市子ども読書活動推進計画（素案）について

（２）実施期間　2025 年（令和７年）12 月 10 日から 2026 年（令和８年）１月 10 日まで

（３）周知方法　「広報ふじさわ」等でお知らせを行い、各市民図書館、各市民図書室、市役所（本庁舎、分庁舎）総合案内、市政情報コーナー、各市民センター、で素案を配布するとともに、市のホームページ「パブリックコメント」に掲載しました。

（４）募集方法　各市民図書館、各市民図書室へ直接持参、郵送、ファクス、インターネットによる募集を行いました。

2　実施結果

（１）意見等の提出人数　19 人

（２）意見等の総件数　68 件

（３）意見等の概要と市の考え方

ア　意見等の内訳

分　類	件数	分　類	件数
①全体について	10 件	⑦ボランティア	4 件
②学校における読書活動の充実・整備	19 件	⑧本と触れ合う機会	4 件
③学校図書館と市民図書館の連携	4 件	⑨おはなし会、ブックトーク	5 件
④市民図書館の充実・整備	12 件	⑩計画の推進	2 件
⑤市民図書館の情報提供	1 件	⑪その他	4 件
⑥子どもの身近にいる大人への働きかけ	3 件	合計	68 件

イ　意見等の反映状況

区　分	件数
ア　計画に反映した意見	2 件
イ　すでに計画に位置づけている意見	19 件
ウ　今後の取組の参考とする意見	47 件
合計	68 件

①全体について（10 件）

	意見等の概要	市の考え方
1	大学教育におけるリベラルアーツの捉え方が「教養」から「生き方や学び方のスキルや構えの育成」へと展開されたように、子ども読書プラン計画推進の「４つの目標」が、どんな大人や豊かな人生につながり役立つのかを気づかせてくれる旗印であれば良いと感じた。	**ウ　今後の取組の参考とします。** すべての子どもが本に親しむことができるまちふじさわを目指し、子どもたちが“かけがえのない一冊”に出会えるような施策に努めます。
2	公共図書館では、子ども層の登録率や年間一人当たり貸出冊数（貸出密度）、年間レファレンス数などの再分析が考えられる。また、藤沢市の子ども一人当たり年間資料費や冊数を全国統計と比較することも有効だと思う。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 子ども層の登録率や貸出冊数、レファレンス数などのデータ分析については、藤沢市の資料費や貸出状況を全国統計と比較することも含め、関係部署と連携しながら検討課題として取り組んでまいります。
3	「子どもにとってなぜ読書が必要なのか？」という点については、想像力、集中、人の話に耳を傾けて文脈をとらえ理解する力、構造を心得て整った文書から”骨組み”を自分の思考に染み込ませる力、問いを生み自問自答につなげていく力などの能力を、小学生の頃から時間をかけて鍛えるために読書は有効だと思う。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 子どもが読書を通して豊かな感性や思考を育み、自ら学び続ける力を培うために、家庭、学校、地域、専門・関係機関が一体となって取り組んでまいります。
4	読書は、子どもたちにとって「楽しいもの」であってほしいと思う。しかし、今となっては興味・関心にとどまらず、日々の習慣と癖づけと考えたほうがいいとまで、子どもたちを取り巻く環境は変化していると思う。そのことを踏まえた工夫や方策が示されることで、子どもたちの未来にとってプラスになるのではないかと思う。	
5	デジタル化やＡＩの進化のスピードを考えると、想像力や集中、少しの忍耐、人の話に耳を傾ける力、物事の構造を理解する力や問いを生み出す力などは、人間側がこれまで以上に強化していくべき能力ではないかと思う。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 子どもが読書を通して豊かな感性や思考を育み、自ら学び続ける力を培うために、家庭、学校、地域、専門・関係機関が一体となって取り組んでまいります。
6	この計画が子どもたちの読書の楽しみをより広げてくださることを心から願う。	**イ　計画に位置づけています。** 計画書 29 ページ「基本理念」に位置づけています。 子どもたちが読書の楽しみを感じられる環境づくりに努めてまいります。
7	この計画がより良い形で推進されることで、一人でも多くの子どもたちが、豊かな経験と、「とっておきの物語」に出会える図書館が実現することを心より願っている。	

8	計画の理念や方向性については、個人的に強く賛同している。一方で、計画の実現をより確かなものにしていくためには、対象となる子どもたちを取り巻く現状や環境の実態に、より踏み込んで向き合っていくことが不可欠ではないかと感じている。例えば、読み聞かせなど子どもと本に関わる活動を行っている多くの団体が、参加する子どもの人数の減少を第一の課題として挙げていることは、その一例ではないかと思う。	**イ　計画に位置づけています。** 計画書 36 ページ「専門・関係機関」に位置づけています。 子どもの読書を取り巻く環境の変化や新たな課題に的確に対応できるよう努めてまいります。
9	今回の素案は読みやすかった。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 子どもたちが読書の楽しみを感じられる環境づくりに努めてまいります。
10	私自身は多くの内容を詰め込んだ「計画書」そのものを信用していない。「計画書」を作成したことで何か大きな仕事を成し遂げたように思っていないだろうか。「計画書」はあくまで計画書にすぎず、そこから何かを一年で実行に移して初めて仕事として成立する。そのことを心に留めてほしい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 本計画が実行性のあるものとして機能するよう実行に移してまいります。

②学校における読書活動の充実・整備（19 件）

	意見等の概要	市の考え方
11	学校図書館は変化しつつあり、「居心地の良い場所」となっている。これから学校を新しく建替える際には、図書館を中心に置いたような設計を希望したい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 学校を新しく建替える際のご意見として参考にさせていただきます。
12	勉強ができてコミュニケーションの場として機能し、朝の到着時や休み時間の合間や帰る前の待合室、非常時の避難場所として利用できるような守備範囲を持たせ、みんなが心から安心できる空間がほしい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 担当課とも連携を図りつつ、今後の参考にさせていただきます。
13	活動推進の中心施策である「図書館」や「学校図書館」の充実の方向性について、「読書環境の充実」を越える近年の「図書館あり方議論」を踏まえて、情報リテラシーにつながる課題項目を提示されると希望が持てる。図書館の充実が司書運営集団の専門性に直結することを気づかせてくれるからである。特に、学校図書館の充実の方向性については、先進自治体やＳＬＡなど藤沢市外の取り組み情報を調査研究比較してもらえると嬉しい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 図書館の情報リテラシー支援や先進自治体・SLA の事例を参考に、学校図書館の充実に向けて進めてまいります。

14	学校図書館では、学校ごとの貸出密度（児童生徒一人当たり年間貸出冊数）や一人当たり資料費を経年調査で比較し、各校の年次目標を確認・共有する他自治体の施策例も参考になると思う。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 学校図書館の貸出密度や資料費の経年比較といった他自治体の施策を参考に、各校の取組に生かしてまいります。
15	学校図書館を利用しやすい場とするための取組が計画の中に示されているが、読書や学習、情報センター、居場所など、さまざまな機能をもつ図書館を利用しやすくするためには、常時開いていることが必要だと思う。しかし、実際には人がいなければ開館できない学校も市内には多くあると思う。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 学校図書館の常時開館を含めた利用環境向上に関するご意見について、現在の体制を十分に生かしつつ検討してまいります。
16	司書教諭は常時図書館にいられるわけではなく、専門員も週２日の勤務であり、図書館の運営が難しい現状であるが、その中で司書教諭・専門員が運営を担い成り立っている。施策展開にむけての主な内容として「運営計画に則った～」と記載されているだけでは、結果として何も変わらないのだなと感じる。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 学校図書館の運営に関するご意見について、現在の体制を十分に生かしつつ各学校の実情を踏まえ検討してまいります。
17	現在、学校図書館専門員は週２日勤務に限られているため、できる働きかけにも限界があると感じる。学校図書館体制充実の要として、計画でも「いつも学校司書がいる」状態を目指し配置について明記いただければと思う。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 専門員の勤務体制に関しては課題として認識しています。現在の体制を十分に生かしながら検討してまいります。
18	学校図書館を児童生徒の成長と学びを支えるだけでなく、居場所になるように環境づくりを進めている中で、人がいることが一番重要なことと考える。学校図書館が誰にとっても活用しやすい場所になって欲しいと願う。	
19	図書館専門員として勤務しているが、週２日の出勤では、読書活動の推進や環境整備を行うには時間が足りない。授業支援へのニーズは高いものの、出勤日の制約で対応できないことも多く、現在の計画案は理想を掲げているだけのように感じる。本当に計画を実行するのであれば、専門員の勤務日を増やすことから始めてほしい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 専門員の勤務体制に関しては課題として認識しています。現在の体制を十分に生かしながら検討してまいります。
20	学校図書館専門員は、本の読み聞かせ、図書室環境の整備、読書指導など多岐にわたる業務を限られた時間内で担っている。その中で、司書教諭として専門員との連携は必須であり、「子どもたちが本に親しむ」ことの実現に近づくためには、専門員の勤務時間を増やすことを強く希望する。	

21	図書館専門員の勤務日数を多くしてほしい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 専門員の勤務体制に関しては課題として認識しています。現在の体制を十分に生かしながら検討してまいります。
22	司書教諭と図書館専門員、ボランティアの協働が述べられているが、司書教諭は担任業務と兼務している上、専門員の勤務日数も限られている。この現状ではさらに連携を進めることは難しいと思う。時間的な待遇改善についての方策には触れないのか。	
23	学校図書館の環境整備の中で図書資料の充実がうたわれているが、昨今の物価上昇により書籍の価格が上昇している状況を踏まえると、図書購入予算が十分に確保されるのか疑問を感じる。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 図書購入予算については、学校へ配当する予算の検討に合わせて、毎年度適切に検討を行っています。今後も引き続き図書資料の充実に努めてまいります。
24	子どもたちは学校図書館をよく利用している。学校図書館は子どもたちにとってとても大事な場であると実感している。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 学校図書館が子どもたちにとって重要な学びや成長の場であることを重視し、引き続き読書環境の充実や利用促進を支援してまいります。
25	本文では、多様な背景や特性を持つ子どもへの読書支援が示されているが、取組項目では、学校図書館について「利用しやすい環境の整備」とまとめられている。学校図書館だからこそ、さまざまな読みの特性に応じた資料の整備についても触れていただけたらと思う。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 学校図書館の資料整備では、多様な読みの特性に応じた本をそろえることが重要であると認識しており、今後検討してまいります。
26	学校図書館には規模に関係なく基本図書が必要だが、小規模校では予算確保が難しい。すべての子どもが充実した図書資料で学ぶことができるよう、児童数に加え基本図書購入専用の予算枠を設けるなど、図書費配分の見直しをお願いしたい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 学校へ配当する予算の検討に合わせて、毎年度適切に検討を行っています。今後も引き続き図書資料の充実に努めてまいります。
27	学校によっては、図書室の作りが狭い作りになっているところがあり、調べ学習として活用するスペース（机・椅子）がなく、ブックトラックを作って必要な本を教室に移動させ、利用する方法をとっている。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 学校図書館の環境整備については、調べ学習に適したスペースや設備が重要であると認識しています。建物の制約等を踏まえつつ、できることから工夫してまいります。
28	学校図書館が保護者や家族も利用できるようになれば、大人を巻き込むことで本に触れる機会が増えるように思う。「みんなの生活の通り道に図書館で本を！！」というのが理想だと思う。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 学校図書館を保護者やご家族が利用することについては、施設管理の観点で難しい点もありますが、コミュニティ・スクールやＰＴＡ等による企画のなかで参考にさせていただきます。

29	家庭の読書推進の手助けとしておはなし会があげられ学校でもおはなし会を行う計画があるが、小学校では朝自習の時間もモジュール授業時間として授業時間確保に苦心している現状で、おはなし会の時間確保についても触れた方が良いのではないか。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 「おはなし会」をはじめ、読書推進に資する取組について、各学校の実情に応じて実施できるよう事例の共有などに努めます。

③学校図書館と市民図書館の連携（４件）

	意見等の概要	市の考え方
30	地域図書館や図書室との連携が計画の中でうたわれているが、実際には、多くの学校では本の団体貸出にとどまっているのが現状だと思う。	**イ　計画に位置づけています。** 計画書 49 ページ「様々な機会を通じた子どもの読書活動に関する取組の推進」に位置づけています。 ご意見を参考に、連携事業の充実を図っていきます。
31	専門員が毎年取組内容をまとめた冊子を作成しているが、実際には図書館を見学する機会はほとんどなく、専門員同士のつながりや、地域の図書館・図書室と連携した展示や企画の工夫について、共有や連携が行われていない。	**イ　計画に位置づけています。** 計画書 46 ページ「学校の図書館（図書室）の環境整備」に位置づけています。 現在、学校図書館専門員連絡会や、研修会等において意見を交わす機会の確保を位置づけておりますが、ご意見を参考に機会の充実を図っていきます。
32	人が集まる場である一方で、専門員同士や施設同士のつながりは薄く、それぞれが個別に頑張っている状況だと思う。	
33	鎌倉市のように学校と図書館を結ぶ運送便を藤沢市でも導入できればよいと考える。教職員や専門員の負担軽減にもつながるため、検討してほしい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 学校図書館と市民図書館の連携事業については、教職員や学校図書館専門員が使いやすい事業等について研究してまいります。

④市民図書館の充実・整備（12 件）

	意見等の概要	市の考え方
34	図書館には子どもが「わくわく」するような設備の工夫がほしい。海外の図書館では、児童向けスペースが秘密基地のようなデザインやエアロバイクを設置するなど種類が豊富であり、色もカラフルで何かあると想像を掻き立てるような空間となっている。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 図書館の環境整備について、様々な取組を検討してまいります。
35	図書館、図書室の数ではなく質の充実をお願いしたい。軽食が取れたり、イベントができるような要素があると、より身近な図書館となり、本に触れる機会も増えるのではないか。	

36	「カッコイイ図書館」を増やしてほしいと思う。閲覧室や勉強室を充実させ、一日中過ごせる環境を整えてほしい。また、総合カウンターではあらゆる相談ができるとよい。	**イ　計画に位置づけています。** 計画書 51 ページ「図書館等の環境づくりに位置づけています。 図書館等の環境づくりとして、「本を読む場所にとどめない居場所づくり」を計画に位置づけています。
37	図書館や学校図書館にある本の古さや汚れが手に取りにくい一因でないかと感じるので、予算の制約も理解するが、本の新陳代謝が効率的に進むとよいと思う。	**ウ　今後の取組の参考とします。** ご意見を参考に、子どもの興味や関心に応じた図書資料の充実に努めます。
38	市内の図書館をみても、子どもが利用する学習スペースが少なく感じるため、整備面について考えてほしい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 関係部署と課題を共有し、検討してまいります。
39	図書館や図書室がどんな場所かを知ってもらい、親しんでもらうには、日々の業務を通じて積極的に働きかけることが重要だと思う。	**イ　計画に位置づけています。** 計画書 48 ページ「様々な機会を通じた子どもの読書活動に関する取組の推進」に位置づけています。 ご意見を参考に、事業の充実に努めます。
40	小学校 2 年生が公共施設見学の一環として図書室を訪れることがあるが、その後、友達同士や保護者と一緒に再び来室し、図書館カードを作ってくれる児童が必ず何人かいる。これは、迎える側が「どうしたらまた図書室に来たいと思ってもらえるか」を考え、皆で意見を出し合い、入念に準備してきた結果だと思う。	
41	図書室見学の対応は、図書室ごとにかなり状況が異なっていると思う。そのため、子どもたちがわくわくするような図書室見学について、改めて考えてみるのはどうかと思う。	
42	市民図書室に返却ポストがないのが不便。他市では、各駅前に返却ポストが設置されていたり、自動返却ができたりする。湘南台駅にポストが設置されているが、人通りが多い場所に設置したり、１台ずつ別の場所に設置するなど工夫してほしい。藤沢駅の返却ポストについても、駅利用者やベビーカー利用者にとって動線の良いところに設置するとより利用するハードルが低くなるのではないかと思った。北口の方にもポストがほしい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 皆様にとって使いやすい図書館になるよう検討してまいります。
43	小田急にある南市民図書館はアクセスも良く、立地はこうあるべきと思う。奥田エリアではアクセスが悪い。市民目線で「藤沢に住みたい」と思わせるような柔軟性を持ってほしい。	

44	実際の取組として現場に下りてきたときに、図書館運営に携わる人たちが、より一緒になって利用者や本のことについて語り合えるものになっていることを期待する。そして、図書館が、いつまでも人の集まる場であり続けてほしい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 皆様にとって使いやすい図書館になるよう検討してまいります。
45	アンケートにおいて、図書館・図書室に行った回数が０回の人が減ったのは、南館が立地条件の良い場所にあり、利便性がよくなったことがあると思う。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 皆様にとって使いやすい図書館になるよう検討してまいります。

⑤市民図書館の情報提供（１件）

	意見等の概要	市の考え方
46	広報誌や公式ＳＮＳ、地域アプリ等で、単なる新着リストではない「保護者の声」を反映した読書コラムを定期発信してはどうか。	**ウ　今後の取組の参考とします。** ご意見を参考に事業の充実に努めます。

⑥子どもの身近にいる大人への働きかけ（３件）

	意見等の概要	市の考え方
47	保護者が自分の子ども世代に「今、読んでほしい本」のレビューやＰＯＰ（図解入り紹介）を作成し、図書館や学校、地域の公共施設に掲示してはどうか。身近な大人からのメッセージは、子どもにとって強い動機づけとなると思う。	**ア　計画に反映します。** 計画書 48 ページ「様々な機会を通じた子どもの読書活動に関する取組の推進」に反映します。 子どもや子どもに関わる大人が主体的に読書に関わる活動を実施します。
48	子どもたちの読書意欲を向上させるため、従来の学校・図書館主導の取組に加え、保護者や地域住民が「読み手」として積極的に関わる「共感型・地域密着型の読書推進」を強化すべきだと思う。	**ア　計画に反映します。** 計画書 48 ページ「様々な機会を通じた子どもの読書活動に関する取組の推進」に反映します。 子どもや子どもに関わる大人が主体的に読書に関わる活動を実施します。
49	「読書の機会を増やす」取組は意義深く、将来を担う子どもたちが読書好きになることは、「考える国民」に育てる基本になると考える。特に幼児期からの読書習慣が重要であり、個性に応じた本を案内する読書コンシェルジュの導入を望む。高齢者のボランティア活用も含め、市民全体で子どもたちの読書環境を支えてほしい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 地域全体で子どもが本に親しむ環境の整備に努めます。

⑦ボランティア（４件）

	意見等の概要	市の考え方
50	現在、市内では多くのおはなしボランティアの方々が活動している。この方々の協力を得ながら、図書館として組織的に「おはなし会」の出前を実施できないかと考えている。まず、図書館システムの一環として、他機関とボランティアさんを橋渡しする仕組みを構築してほしい。	**イ　計画に位置づけています。** 計画書 50 ページ「読書活動に関するボランティアの養成と活動促進」に位置づけています。 ご意見を参考に事業の充実に努めます。
51	幼稚園や保育園、児童クラブなど地域の子どもに関わる施設・団体と連携し、参加者を待つだけでなく、出向いておはなし会を行うなど、ボランティアに対するサポート体制の充実もお願いしたい。	**イ　計画に位置づけています。** 計画書 50 ページ「読書活動に関するボランティアの養成と活動促進」に位置づけています。 ご意見を参考に事業の充実に努めます。
52	多くの保育園でボランティアがおはなし会を定期的にできたらいいと思います。	
53	図書館ボランティアの育成に向けて講習会を幅広く開催してほしい。	

⑧本と触れ合う機会（４件）

	意見等の概要	市の考え方
54	大人が読書に触れる機会を多くすることが子どもにとっても自然と本を手に取りやすく、子どもの本の機会と同様に大人にも本をそばに感じてほしいと思う。	**イ　計画に位置づけています。** 計画書 48 ページ「様々な機会を通じた子どもの読書活動に関する取組の推進」に位置づけています。 ご意見を参考に事業の充実に努めます。
55	図書館や図書室に実際に足を運んでもらうことが大切だと思う。いつもはコミックばかり読んでいた子が、夏休みに自由研究の本を自分で選び、借りて帰ったことがあった。その子はコミックの棚にしか興味がないと思っていたが、度々図書室を訪れるうちに、図書室にはどのような本があるのかを知識として身につけていたように感じる。	**ウ　今後の取組の参考とします。** ご意見を参考に事業の充実に努めます。
56	市の歴史、文化、自然環境に関連した本や、市ゆかりの著者の作品を「地域推薦図書」としてブランド化し、郷土愛と読書をセットで育む。また、その本の題材となった場所を巡る「聖地巡礼スタンプラリー」を実施し、ファンだけでなく、読んでいなくても本に興味をもつような仕組みをつくる。	

57	保護者の多くが、おはなし会の存在や図書館の場所そのものを知らないという現状があると感じる。豊かな読書習慣は、小さな頃からの積み重ねによって育まれるものだと思う。そうしたことを踏まえると、赤ちゃん世代やその保護者に対して、図書館の存在を知ってもらうための取組が、今後ますます重要になるのではないかと思う。	**イ　計画に位置づけています。** 計画書 40 ページ「ブックスタート関連事業」に位置づけています。 母子健康手帳交付時及びこんにちは赤ちゃん事業の実施時に絵本やわらべ歌に関するリーフレットを配布するとともに、ブックスタート事業を実施し、図書館や本と出会う機会を提供しています。今後も取組を継続し、乳幼児とその保護者が読書に親しみやすい環境づくりに努めてまいります。

⑨おはなし会、ブックトーク（５件）

	意見等の概要	市の考え方
58	おはなしの部屋の使用について、何か問題があって“中止したり、禁止したり”を決定する前に、どうすれば中止せず禁止せずに続けられるのかを工夫し、十分考えてほしい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** おはなしの部屋については、新型コロナウイルス感染症の流行により、密を避けるため使用しない期間がありましたが、ご意見を踏まえ取組の判断については慎重に行ってまいります。
59	子どもたちに本をもっと身近なものとして感じてもらうためには、「本と出会う機会」が必要。	**イ　計画に位置づけています。** 計画書 30 ページ「目標１　すべての子どもを「読書」の楽しさへ誘う」に位置づけています。 ご意見を参考に、子どもが身近に本に触れられる機会の充実に努めます。
60	おはなし会は子どもたちが図書館や図書室に親しむための重要な役割を果たしているが、最近では参加者が減少傾向にある。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 今後も動向を注視し、多くの方々にご参加いただけるよう事業の充実に努めます。
61	土曜、日曜が仕事がお休みという家庭が多いので図書館・図書室でおひざの上のおはなし会を開催してほしい。	**イ　計画に位置づけています。** 計画書 41 ページ「おはなし会等の開催」に位置づけています。 市民図書館・図書室では週末にも「おひざの上のおはなし会」を実施しておりますが、ニーズに合わせて今後も開催日時について検討してまいります。
62	保育士を対象とした絵本講座をたくさん実施してほしい。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 読み聞かせ等の講座を毎年行っておりますが、ご意見を参考に事業の充実に努めます。

⑩計画の推進（２件）

	意見等の概要	市の考え方
63	30年以上続いている国の学校図書館整備事業や全国での子ども読書推進の取組、継続的な確認の重要性には共感しているが、ことばによる定性的な政策の提示や評価だけでなく、定量的な状況の経年比較や施策評価の道具作りを始めてみてはどうか。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 他自治体の事例を参考に、計画の推進に努めてまいります。
64	具体的な推進施策を拝読し、現状分析と問題意識を深化し具体化させるためには、他の先進自治体の事例調査や研究を計画立案の体制に取り入れることが有用ではないかと感じた。	

⑪その他（４件）

	意見等の概要	市の考え方
65	現在、藤沢市では１歳６か月の時期に絵本が配布されているが、もっと早い月齢で行ったほうがよいと思う。他市では０歳代でブックスタートを実施しており、早い段階で図書館とつながることができる。０歳や１歳のうちに保育園へ子どもを預ける家庭が多い中で、１歳６か月の時期に行うのでは遅いのではないかと思う。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 最初の集団健診である１歳６か月児健診で、ブックスタート事業を実施しており、今後も関係部署と連携し事業の充実に努めます。
66	小学校で読み聞かせを行い、子どもたちが本を覚えている姿にやりがいを感じている。絵本ブームの中で、「大人が癒される」本に注目が集まる一方、子どもたちの心や頭の栄養になる骨太な新刊作品には、なかなか出会えないと感じる。マンガやゲームに対抗できるような作品を待ち望んでいる。また、「読み物」として楽しめるコミックも多くあり、そうした作品は積極的に勧めたいと思う。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 幅広い図書資料の収集・充実に努めてまいります。
67	「ふじさわ読書プラン２０３０（素案）」に「読書通帳」のような目に見えて成果がわかるポイントシステム導入実施の要望が保護者から挙げられていることが記載されている。とてもよいと思う。	**ウ　今後の取組の参考とします。** 読書の記録については、現在は「読書ノート」として実施していますが、いただいたご意見を参考に事業の充実に努めてまいります。

68	「触れる絵本」やＬＤブック、録音図書など、学習障がいや様々な障がいを持つ子どもたちが利用できる資料をもっと充実させてほしい。これにより選択肢が広がり、本に出会える機会が増えると思う。	**イ　計画に位置づけています。** 計画書 51 ページ「すべての子どもに対する読書支援」に位置づけています。 様々な人が利用できるように、「りんごの棚」等、図書資料を整備することを計画に位置づけており、引き続き図書資料の充実に努めてまいります。

以　上

（事務担当　生涯学習部　総合市民図書館）